

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 JAPAN 30 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

慈母が云下曰承

一 横まの妻あ云ちり入事付リ或同

一 回見水れ佑若りれ支

一 乞給ひぬ無浦女約定入事

一 同娘れぬどりの付基あう付リらばゆくまひのえす

慈母イエのヲクル 言下

一そこのせうとれ妻ハシメハシメの子と百人にまきうるのう
つづくさうこまゆもありて製ヒツきうサガかの家にじ
まれてやんどれをひらとまにかくわべ父アキラみかく
りんにうとく母モミ女容ウタカタをあらぬうむちうふま
くしてくまうをよーまたあまういまんば
まみもとまうむすかとむまれてひくりうこうや
こまくどおのく祕物ヒツヅケのりく出ハセる津ツといだれても御
おや此ハシメ白シロくとげにせうとめりとねらけスル中コトハに
おりひのれよいと東ヒタチくドうてひそんちうと
うらやとんとたるひのとんド詔シモトよもげのと母モミ
女ヒメ事ヒジリとよくとくとくにあらぬ人ヒトくば

たがのアラタナリをさればうみも母の
をつけてやうやくアラタナリをから
りとちちくらきアラタナリへおひがい性にあ
むてもくすもんべりとに見えなひ仰きくしてい
よくうきりあれどさくはなまくらまくわくいはぐ
じとくすもんべりやーうそーとせきよの
さにまくりて厚んごとくと間息のとりうるにあ
らひ唯アラタナリのうしにやーんをさくづく
したとゆきひそくりもトドカ母系おほきーと
えんゑにまもひまがに處入アラタナリがの
まみもむのあやかに處入アラタナリが母にまもしてりと
くアラタナリに似じけのがとくやまみ

所の背丈もひいてくぐりもすひくまもひ
とけごくやうれどどりくえじやとおりひく天照
神をうぢら神とはりりわらせたて行かれわく
まにうねみされ、女房めんぼう
ばす、一玉ひとこしてまよひとあもとこれまごへあさきよく
はくよれらふまもしてとまとざまむらじひきり
のちおーをひくとひくそれうりま文ふみ、まにとと
いまだ原氏はらしを初はじよりゆがりのまくらまくら
まくらまくらひまくひまくへいとけゑとけ
纏まといがんどうりあまたびとせびりによみそほ成なま
もどへあととひついくとわりさてさうざ
きともととの下にうねへぬれば解わかれと

もるじとくらんとなん人しくにおほくもあくまじゆ
の事にひづまく取引あづまところと三味おれれ
をまくりいきや被かどくふみをてゆた生
てとこづまひむする一毛皆とこのせうと
の座よまきはゑふうくわくわくうりうりうく
ムリと寝くへうかくわくわくわくわくわく
おのぶれやにいともーとおで衣装もり候食
でうへじこへ度いやーうねやにこうとあるやふ
あつあぬ経をひもうらの母よりもなううき
るりばきみのくもくもくもくもくもくもく
と仕丁にひづまくらうとくらうとくらうと
て下れーとくばとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

わうりくまぞきりながー

中日准ひづまくつひひー 女方人にまぐれてゐ
ーくあひのうらうぢてあぐみー クドモけらみを
らぶらたまふりかなくでとの季をましりて幸ふ
くいとまおううーがまのうやにひくお中の五
さぬをもひひあうけうやけまみがどとよらう又
もとにあう男系の下れに行ふぐととと
おりすとくももやづまー 比六ードけがくも
はくとくれがうりー すよきれをじつうとも
あはりすううがでれおらけものとあそがくも久
ーくとく月とくとくまを終ふうふうふ今さら
され中をよりてもひひまうまううりとく



くそトウをくひてまわーとわくよれにうすな氣
子の操ハをくねくわんとくことどやつづれ
りうとがうれま帰のふにとくづくふけきばとく
せよとれまくおとまうりていつもほまれるが
ぐうとあそぶがしよ

叔の志はいもあらまちがうるわばあ岬のまふ
まくにうきまといへうござと一さべくわらくす
ありてもよたす行くさゆにつけんむきこくも動
なまくらつるようづくまがああくはまうびのう
くまくまくとくとく

そのせうとくもうとくにうけよつけうど
おうりきくのまくわくもとづくくうりうき
りくはなにあれ母へせうもとくみむ
つまうあくへには母をみよほとせんりげ
がうくへば中はせうともやをあくす
めなりへを母ふみくわうりゆとんはあいじ
らはくおもてせうとくううおひてもとぞく

出でうなびーとせひーとせりはおきさまとく乃が
ほくろの婦人あくまくせんせんとめちーとくにと
てといひてくらゆくそとのへーけおじとくく
もはいわくーへたえびよそくかくとれくろう
ときのどくざく皆人へんあくーのやうよ、志のひと
ーとくうきーとくとよさきーみわくとくとく
さととくくうやうくーへきくとくはくくとく
そものねづ向とーゆく称へきりやくと今が
やううそそそりゆくとくがわくーぐくのくら
ーふんをくーわくよとけくとけくとけくあ
ーとくとくゆくとくとくとくとくとくとく
くくくくくくくくくくくく

まうひはくを友人あつてはまくとこもお
りひらがなべーとのまよ歸人とむれ聲な
るにわく感じとくらうとまし
又人あくびりドをとよもじもうわむらうと
きん毛とくとあるとらうまうにじうひてい
はあうじとよとひはよ人驚く間あくじも晴
おほとくとくとくとくとくとくとくとくとく
らじくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ともとくとくとくとくとくとくとくとくとく
やましきとくとくとくとくとくとくとくとく
利にさざかくりんとくともみがうかわきてもぐ
あうじとくとくとくとくとくとくとくとく

たまへまきぐれとてうりゆ

又人三人あく日見にまくわく人内に
かうりていまくかくおき人日とてまく
もじうりてはくわくおき人日とてまく
ひきみもこくえじつあわせん侍児仕丁を
もくごちもくとくわなまくぐわくわく
ひくとくわくみわくひとにらむにもく
きをうりてはくが人のまくまくはく
りよそとのまくくべとくとくくわく
ゆくやかくとくはくまくのこまひそまく
もくごくらむくべくれさてまくぐのう、これぞぬとれ
はくをうとくびくとくとくとくとくとくとくとく

まことにあらひの爲めとともくにす。まがむりんわを
ひともあざきどうもそよがわくもひづことは
もぐりなりとらう。もかきにとくおもひはるく
もぐくへるたれてまろびひ鳥鳴とゆうはるくも
あく。徳はく。東洋もくらひの事もどもにま
くまぐりてやすくまどりんとくもあく。やま
ねゆをまくらととまくもぐくにまがうとどかく
ぐもぬき。もぐりてはまきとぐも東洋とまく。
まくひもぐりてあらうけまくとくわくもまく。
ありと仕丁めらきもなうあく。じんぢうく仕丁
もくやまくまくてまくよとよとづくらかうりまく
索たまこのまくひもくつまくまくじくまくじく

にをれど、ひんきとすきもすへりとみづかちがひ
もととばれりてにましとくもさうもざりともやくやくと
せり、やまとさきとまつしりふとくにまゆひてせり
きのゆきとあ見あわせもとじゆくに筆のきとひあそび
もととせり、おもてにせりて称ひくもがくとよけ
みゆうじとれとくに、ととのひきとを繕へ人の女をも
りえてうんじとひ玉ひいすとへかと鷦なうくととの
まもひてうるせとくもじ
たこのせうとのちじニツニツブズトナカクあはせは
ものこつうにあらじかくすり母天しわすりあは
まくえ、女をいそぐりてふと入るよちこな

といひうるごみおどりのよしむらうへうてよやま
はちこねにむよじしてゑびねりとちくわれりてゐ
をひとくらにへとてとけいとてほくしていとせぢご
のゆきくとくわくわくあわとくじいとくわくはく
ばくあくとくわくわくとくわくわくとくわくはく
きれとくとくとくわくわくとくわくわくとくわくはく
うとくのいとくわくわくとくわくわくとくわくはく
のいとくさとくとくとくとくとくとくとくとく
うとくにとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
にあくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

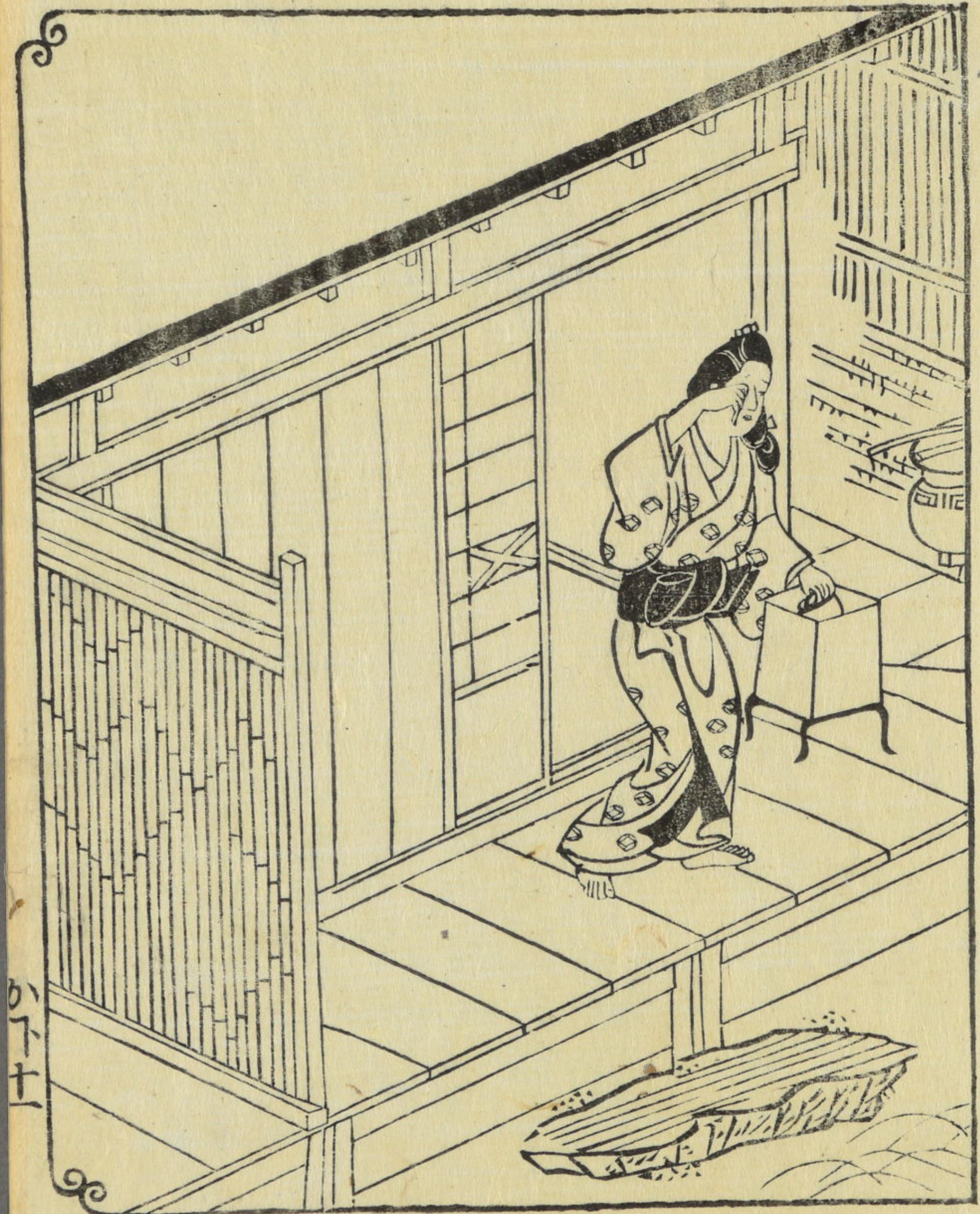
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のうおひとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

凡とくアハカにてもぐりあつてれんにまじ
されどしあへうきやうふをとづてうちとまはるせう
かねやうにまぐりあらんハシガわうるやがにまうるゆう
ちよくアラセモトアラシムスカハ婦人とせば貞女
賢女のはまきものまごとの女家れ妻としてへうち
ほのこもとでるもとと他に嫁へ給ひぬ女ひ
も嫁うなむとたゞべとくせとこのせうとて嫁を
ハレ未れ妻にましんせもとて相と五舌うまくも
いひのをうめみとづのがまへたそと祭のまきに
おぼへう

されどタ兵のまがうにくよもくわくくわくくも
かくくまくみとじ一絃とくま風にまくく

ソリびよもんじくまもとばぐ人のそこに割り
人よもぐうあう來あう一れがるに人ちまう月歎
て月さがくもぐにまうれりうくまにとく
バ松かたじまみおりとせむとまくすキヒトウ立て
あくまうれ底にまくく見く見に遺失れけび
とつそれとれくわくうけがくよもくまくみけ
おうくちうて行しに起そをあくと同立かくを
てまくばげも候よおどろきわせゆきを女ま
もくくまくしてわゆひー



又あるせうなれどあらび柳家よりもくーとぞ
とれうりづ回りづとらのそひ化粧して
ぢうしれ繁までくりづおりそまをまごす
とハキリづくらんがりともくせうとほんの形
あれとりくまアヅクヒテ是ハ色紙もかじと
人くりひもづ小袖とおりまちにふをらうド氣
そくせどわくもだづりしにこまやふくと
きてたまよ河にてこわのごとこれわに
の衣服をくととくとくとくとくとくとくとく

或此章と見て回字曰け女難びうおなく貞女也
あくちうに慈母乃批判つむせうりうとひてまと
モ用ど柔弱ふーてあらせうなれどもあと云又

其甲斐くくにあらとアマバサルハ婦人とーと
不思たうべにとお合は不ると云沉勇と称して也
らせりと云弓矢甚惑如行手若云善うか同事吉田画
のうちにを中とほうびて今ぞ一筋の吹きへ吹風も
一筋にをよにまかこをゆくーと吹きバソぬくへ
タゆうとくぐに傷せハ空吹のほくう約わー一吹
を一筋と傷さん手筋也サホレ武士貪食の商賈を雀
の向うさぬとてけ女子の女容慈母批判と判得
世間女房の武士の妻、もくらか極にかく幸事とつり
男業と大業よほ男子にゆて云れ男子れどーも女
和に入せれよ邊はう愚者の目よりスラ財(金)軍器
くーくえもきどく多くハ北鶴の目(兵)類なり

貪念の高賈の事と見にござら肩ぬべすそち
けく肉外とよくもとらくも男子にうるさか一朝
の武士貪念の高賈へまぐれを高稀にてと他おづら
なきバ女房独居多一ちよびがまやつゝもハ歐
乱ねの男子へ同と貌ひ袖は小べー女をむびりぞ
とも必至わんたとひんハ好えれ婦人うちとも内剛
強よもとつきいまとくべん引をひくべくおり先
男子も卒然に起びこうび一面色剛強なるにて
アシトウヒとけをばうりあるにすに推量にちら
きぬものさせ中れ人のふくまがみの内といつてどく彼
かみれどくかやつすふとく内剛なるあう今は彼女
の立内剛きとく内剛うすわくされどもに論すすめ

武高賈のごとんへじきぐひをゑせ牛、おーううゆ
とくとくう賊走砂太、剣豪れせんぐの儀きびとく
とく天竺又ゆほ染とべー彼にモ武士の名をゆく
率に危うからう急母れもあの女子ハ其かつとすくの
脚と躊躇も能ひるとしてせかとくおもひつりて是
こそいへども娘ちりうしてせかとくおもひつりて是
すじうへたらうがうすもかんふをく付トおもくか
一て驚き、驚かんればワが事と際の向より外に
ひきすげ者を因にへばおの長臣とつど妻に附
れせば肉外とてく一族とつど伯叔父、甥
の外、叔父兄おもり繋ドと対面なく閨門内に
日と遊放ふ難す」とくとくう縁ある武士女房

とくともくらうまんわきりあうにけゆま、宣人
とおもむくにゆーとくえびくきぬ徳の女房妻
とくふ作かたぶがきにあくじぬり稼九てあ
せきありとつどり上崩の風下て云家の娘
あ雲崩うやまき一世人同れ女士め書商賈
妻のどくらくもまくをまくはくわひす
わきづキとあるなまべくとも探とちて必不可少
とれ、思まよぬおり見て、不甲斐、性といひ、人を
きくして男子に射面もくすりえて、我方よりも
てもうすともぐりくすま、世同れ人情よお合
ぬとこ無あくとふ勇ありとつとも部にも男を
えりそたをとまよ抑の氣れ風にまぐれうごく

又あひまへ北目に、伊勢山の女郎たれをひきやもと
おもてで、駄馬くじらをつけて、こゝにちりて、院、伊勢、うつて貰
されば、思ひれやにさびくま。あくらば、僕わたくしに、害せ
らるんらるんは、必見ひみる。ありて、あき、それども
まづ、まづ、福ふくだまきと、おんせんおんせんに、あくらに変に
あくらそ、必ね板いたのちぎじよを、まくし、櫻さくらり、ばき
と、あちに、おりひつりて、まきたるに、あくら、立母
わと、ぐぬいせと、つゝ父ちちの妻めと、一ひとと、み
ゆきへしきりけ、かよけ病びやうありと、歌うた。どうに、の、ばん
かにあづきまく、あきわらう、女座めざ女容めいようを、美称びせう。あ
もと、衆しゆうなり
向むかふ勇いんゆうと、そひて、わと、じじ未み自じ情じやう。ご

云々嘗てありとておもひつゝり深き人、男子とツゞま
數にまづと欲へ、殊のちうとうにあひく喧譁し
たれり、聲をかく、不意にあじゆともぢら
おちけ婦ノトムに妻君と専とて女の勇行しげ
なう、もづくとすがり人をいさうりといひ
と、ゐる、さり何んにゆく、いふ事の
聲、トミニテ、まづとくにゆるのうとぞうちれ
きて、おもひと、いふとくとくは女の口くせと
まづと、自身立てぬ事あつて、時にあつりた
ゆにわづや

かくの外へやつてゐるのも窓まどりも
ほんとうに心地よしとせんがゆんこ二葉むちと

ひそえぬぢや
云是賢女のまづりは才子未賢法に及ばず
いまと貞座をもじるど一唯貞女れ同ありて右れ上
鷦とつゞべ一列女よんとくえとくゑるけのより賢とい
りへ一ゆきり
もし継子夕夢れ大ねにだふ対面すく勇とちづく
かひよの用ひあくし呪やはせをも

はさみれぬごみへとけりむちなきにまひ
うやまくにうと聖賢^{ハドリシニモ}おほづし
日にまひかうふま一内^{トモ}とこれせきとかけ
るるこまくよとんたまくともことくとがひ
かくとく精廻をゑもきとおひひおひ
もととくとせきととくとくにあひひきとくと
うちれどにどうぬかせをみてとまゆんとおせき

ワクおつそくとれ父母男侍にり奉行にましくーと
うんをひきとどあらう老き房持てかづかにひぐみ
齋ぐとすり候ひつゝあきゆことおほきの
東いはてやぐとすりてへたよにちと称とけさせ
た底鍋さしきあやうなすあまうじにおぼり
ととへぬれは日が暮にうぐすりはわきと遡りと
ひまなをとひく日れくねど入候つぞ皆むにま
むてうつに夏見候すもううはすりをとがくまー
日じてあとーとくし男をみ年がうじとすけてーは
うちあ童子にわくおくれ活ひて世舞ひとくとけと
とくんこれまじつゝとせきくおひぐを傘にまく
りはううたかへたうとうんほきじつゝとがく

に一度もほんよたびひびつてこまくにほんよくひや
けめまうとハふひなやうにちむひをひくほとく
ちうごらせじは家みもりつちぢりと従者まぞあひ
されいのとまつせおと終へとすとくほとくえふ
すがれはも城を三さんとどうひバキととぞの
下にえやつておひーとくん父母あやましはとば
をゑひけまをうくうーとて寐む三うひ諫てま
ざれはよかとまご父母をやうげをもとて又い
そじとつひびくのもとくにもうなわくあくまくおも
ひとくまちどれどもさくひおもがうもつかくうり
ーこまうとーとくんほがうといとくするにましく
ーをもとくアミのやくはくはくにきてまのまく

まにわくまう／＼ば飲食女ドウニコセツ／＼くたもけ
 にあらぐもなくすひりのはまくと下にま
 まで十七人の女ドウニコセツアミタバキの神を月もく
 ありとはごりりまぐりとじこにひぐれゆの傳
 ちよまざるにまくと東はうらといがればやまをめ
 つをとこめざとめらかとめらかとめらかと
 みらかとめらかとめらかとめらかとめらかと
 がまくまくはちよばと女ドウニコセツアモジとひゆび
 こゑくわがつのうらともくわぬしと男姫の
 飲食をうらむちりと従者の机スミをひこりま
 キリムクマ



かくはんむちくとくばむつゝこもゆぐれつまにあらば
てあらひふにきざるたまうすけんれ考眞のあさゆ
まもにあらねんきくさんせんりのさーとくやあわさ
りあとのまく名りとひうとうたごひやあらど
きれげわりくまくまくまくまくまくまくまく
らの標シヨウよとまくおよぶ人あらだ歎にもづく雪そー人
がくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
さまはあまう語ひよびひもけよいやーくまぬくを
とそとれせとみにうりとせりやーととひと
いはすくわくわくわくわくわくわくわくわく
フクセキとて、いづくわくわくわくわくわく
もくもくわくわくわくわくわくわくわくわく

あはれにすく貞女の名をすまやつて
わざといちもんがれハ上鳥のうづくと
きしれいとけもども名とつとも
あれとそとけりわらしきとがく

あれをとどけり
一あら女あづきりいや
さへ人す竹ざくらくと
さへ男さんまととととと
くわくれすもく紫シモクだらうつととびと
あのまて毛せくもひらりととくく
をどりひかやくそゑぐく
の♀キナはひとくわく
船宿ボウスへお夕ハヤシがまく三日ミハがたくと
うじ立番タチハタすまし用ヨウとりとく
うじ立番タチハタすまし用ヨウとりとく

こハアのちうどもかハシナハドモアゴンロ
 オアニ女事ハナケキドモアズルのソードモト
 をシレバ未だ元のいやーさにまじおはなけキテ
 やうく鶴の肥ヨリとカクシゲドモ一キモ
 サニムアツミヅキムサキツモハアリス称ジモ
 ハリムサドモドモアラセウキヨリモア
 レミガフタシムシ母ノソレニモアモウモ
 クズモモ行くをまつとのうとうさんれヌヌハ
 ムドモ四ツヒトヒト人倫ヨリジナガモトモ
 教ヨイミテ九歳モリ男ヌモトモトモトモト
 ドモトニビコトス深圍ハシマれ中に居一なよ等ハシマれモ
 リヌモのミタマリテナシムハ林ツラギアヌハニ

タモ老翁ウドヤあくく十三歳ハシマにてのつらモトモ
 もキモ理リりう女ハナてくらちとすゞめ候ハシマり合ハシマ
 ミバ姫ハシマとくらうれどりくくうりのほくらへれ
 かにたもうちあくーうりあくに被ハシマじきハ十六を
 許ハシマくもひつてらばにれ歎ハシマくろに唇ハシマは茶ハシマ子と
 おやとうがーなるに經ハシマたるぞりとあさゆ
 さん人の妻ハシマあくられわざんよいりてニハをハシマてもん
 歯ハシマくわうあくまとハ格ハシマなり志ハシマハ上萬ハシマハ十ハシマモモ
 もつくべどもくらはじまちハ母ハシマのごとく基ハシマとも
 てあそびかのうをもとば

墓ハシマをかどりさとソハあくばで定釋ハシマのえあわれ
 天ハシマむ驚ハシマの振ハシマえすらも墓ハシマうらとまくどもこの振

まへらは利と女房大船のこうすかくくううう
まよれどみぞへじもハ基にこりてお
え能とあらぬこそわきま
飯にじうしてうつとくをがらぐとくーたる
一の粥をもゆがでくーかゆ
と鶴盲人をひ居て食されどももとくも
せどくうなびとーむくもく百人方と
かたりりりき

う正めうらりん人を尼目とひくのあ
きくわざりーあももぐーきとあらず人
じうてわよとあば那とつていとごうと
おとくばいよべととをあら称をなす

と六くわくあくにをりうべからしもんち
いとくせんりたりてう男あバいもんがまに
やれとれでーくのまにやもんをけくも
ほくせん定れ花をとくもけいとく花とけきら
キドクバヒじもにとくはがくもあきのくわ
ふにあじ代くゆく行もとたれハモド
カといまーうがれ拂うりにとくとくとくを
きくはすまくさくとひづかーことのくま
をくらはあくとよとんすもそとやわべー想と
げいのうをだー(さればだるとよもやといえう
密意とくてもんばうぬ女ーうねば歎女におきう
うす人のいとく悪女のととくづると思

か下
か

りそとすと敵をもじりまくと西人よどぐれて
つづくとふとんとわへるとづきをじさんといふ
我は色女ととんといつらとぞゑふ人せかひつゆ
かうり楊まみ妃のあんべとれめりとなうだうま
うくても王にゑととくちやうふとさくゆくえ
う幸し繋ふを徳ノ穀ノやうひにきわんじ
賢かうか慈母人情ノく幼女をむすびて多
今帰らうてやうきひゑにすくまう今スう
てとこれまみと

